様式3

令和7年度　香南市立保育所評価報告書　　香南市立野市保育所

経営理念	〈保育目標〉げんき　のびのび　のいちっこ 〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈子ども像〉・自分のことは自分でしようとする子ども・自分で考える子ども・人の話を聞き、自分の考えや思ったことを話せる子ども・思いやりの心を持つ子ども 〈保育所像〉・一人一人の子どもを大切にする保育所　・友だちとの関わりのなかで社会性を身につける保育所 ・保護者や地域から信頼される保育所　・幼稚園・小学校との連携を大切にする保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切にする保育士　・意欲を育む環境を考える保育士　・チームワークを大切にする保育士 ・保護者とより良い協力関係を築く保育士　・専門性の向上に努める保育士

経営の柱	中期経営目標	今年度の重点目標	評価項目		自己評価 達成状況	評価	保育所関係者評価 考察	評価	改善策等
保育・教育活動の充実	幼児期の発達に応じた保育環境づくり	生活と遊びを通して食に関わる体験を展開する	①	栽培活動を通して、豊かな経験が育まれる環境の工夫	子どもが興味をもって関わることができるように、外遊びの動線上にプランターを置くなどの工夫ができた。冬野菜は栽培物を選ぶ段階から、育てやすい物や一人一人が植える経験ができるように種物を選ぶことなどを考え行った。また５歳児は自分たちで店に行き、たくさんの選択肢の中から選ぶという経験もでき、60%以上の子どもが意欲的に栽培活動に参加できた。	B	・保育者が水やり等子どもと一緒に行うことで、子どもの気づきや学びに寄り添えていたことが成果につながったのではないか。 ・保育所以外の場所でも花や野菜の成長や変化に気づく子どもの姿があり、園での取り組みの成果だと感じている。	A	・現状に満足せず、子どもの実態に応じた活動内容を考え、職員間で話し合いや連携をしながら、新たな取り組みを探り進めていく。また、子ども一人一人の姿に応じた活動内容を考え、保育者自身も子どもと共に栽培活動を試したり工夫したりして楽しみながら取り組んでいく。
			②	食べる意欲を育むための援助を考える	発達に応じて具体的な取り組みができた。また、食事の食べ始めの時間を子どもの様子や育ちにより見直しをしたり、お腹がすくような活動を意識して取り入れるなど、「お腹が空いた」「早く食べたい」と子ども自ら思えるような工夫ができた。	B	・食べたい意欲が高まるような取り組みの工夫を保育に取り入れていたと感じる。また、栽培した野菜を給食で提供して貰うなど、保育所の強みもいかしていたと感じる。	A	
			③	栽培活動の充実のための準備・整備	栽培前後の用具の準備や適した土について等、事前に調べたりするようになった。1,2歳児はジョウロをペットボトルにしたり、タライに入れた水を汲んで水やりをしたり等、今までしていたからではなく、今の子どもたちが活動しやすくなるにはどうしたらよいかを考えて実践できた。	B	・これまでと違い職員が意識して取り組み変わってきたことは成果だと思う。ただ、この取り組みは一年で達成することは難しいと感じる。引き続き職員間で確認しながら取り組んでいってほしい。	B	・継続して取り組めるように、年間計画に取り入れたり、教材研究として職員間で教え合ったりなどの機会をもつようにする。
職員の資質向上や運営	共通課題に取り組む職員の協力体制づくり	職員の安全に対する意識を高め、子ども自らが身を守ることができるように安全教育を行う	①	安全に配慮した保育室の環境構成を考える	１、2歳児の保育室の環境は今年度見直し改善ができ、遊びごとにコーナーを仕切ったり、使い方が見てわかるような玩具の置き方を工夫したり、安全に遊べるような環境作りができた。ロッカーの上に物を置いてしまったり、使った用具の始末の徹底ができていないことは今後の課題である。	B	・特に1歳児の保育室の様子が以前に比べると見てわかるくらい変化していると感じる。子どもも大人も見てわかる環境は、安全面にも配慮がされた環境になっていると思う。子どもたちも遊びかたや片付け方など自然と身についてくると思われる。	A	・1、2歳児の環境については引き続き、子どもの発達に応じた安全な環境づくりを行っていく。また、幼児は子どもたちにも投げかけながら、一緒に工夫したり改善したりできるように取り組みを進める。
			②	保育者の安全対応力を高める	早出、日勤、延長担当が連携を密にとり、子どもの体調変化等をこまめに伝え合い、不明な状態がある時は保護者に確認をしていた。登所時、降所時の視診も今まで以上に気を付けたり、伝え抜かりがないように声に出して確認を行った。	B	・職員間の連携や保護者との連携、対応など十分に気を付けて行っていると思うが、人材育成の面からも考え、引き続き継続していってほしい。	B	・経験や個々の認識によっても対応の仕方が違うこともあるので、その都度に確認を行ったり、保健衛生等について啓発をしたり等、園全体として同じ対応になるように取り組んでいく。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する	保護者が子どもの育ちを感じられるような発信の工夫	①	保護者との信頼関係を築き、子育て支援・情報発信を行う	日頃の様子を機会を見つけて口頭等で伝えること行った。また、育ちを伝えること意識して、写真を用いてドキュメントやミニだよりを提示し、遊びや生活の様子を伝えた。行事後や懇談時以外でも、子どもの園での姿、家庭での気になる様子等を相談してくれる保護者が増えてきた。また、保護者アンケートの結果でも園での発信から子どもの様子がわかるとの肯定評価が70%以上あった。	B	・保護者アンケートにもあるように、日頃の連絡帳やお便り、対話を行うことで成果が見られていると感じる。また、写真を用いることで、それを見ながら子どもが話をしてくれ親子での会話にもつながっている。今後の期待も込めての評価としたい。	B	・様々な伝え方の工夫を行ってきたことで、園での取り組みが保護者に伝わり、保護者からの反応も見られた。継続して伝えてきたことで、理解を示してくれる事例もあったことから、今後も丁寧な伝えや取り組みを続けていく。
			②	親子で参加する行事等を内容の改善に考慮しながら計画的に行う	参加日や行事の内容がマンネリ化していたので、園、担任として伝えたいことや子どもの育ち、発達が見えるものになるように、職員間で話し合ったり、改善策を考えたりした。クラス懇談のグループを少数にすることで、話しやすくなったり、情報交換の場を設けたことで、懇談後も保護者同士話す様子があった。	B	・保護者としては子ども同士の関わりや日頃の様子を見たいし知りたい。園や担任が参加日の内容や講話等を十分に工夫し、考えられているのは理解もしている。今の取り組みを継続していくことを大切にしてほしい。	A	・子どもの育ちや園の取り組みを伝えられるような内容の工夫や今後保護者にも考えていってほしい課題につながる講演会などの計画も引き続き行っていく。

【評価基準】Ａ：十分満足（９０%以上）Ｂ：おおむね満足（７０～９０%）　Ｃ：もう少し努力すべき（５０～７０%）　Ｄ：大いに努力が必要（５０%以下）